

召会の内在的な建造は、召会の有機的な機能のためである

聖書：エペソ 4:11-16. ローマ 12:4-8. I コリント 12:4-11, 28

I. 召会の内在的な建造は、キリストのからだのすべての成就された肢体を通してなされます——エペソ 4:11-16：

- A. 昇天したかしらであるキリストが与えた賜物（使徒、預言者、伝道者、牧する者また教える者）は、諸地方召会の中で聖徒たちを成就するためです——エペソ 4:11-12. I コリント 12:28. 使徒 13:1.
- B. 聖徒たちを成就することは、「その務めの働きへと、キリストのからだの建造へと至らせるため」です——エペソ 4:12：
1. エペソ第 4 章 12 節の「へと」という言葉は、「という結果になる」、「の目的で」、「をもくろんで」を意味します。
  2. 賜物のある多くの人、ただ一つの務めを持っています。それは、キリストを供給して、キリストのからだ、召会を建造することです。これは、新約エコノミーにおける唯一の務めです——II コリント 4:1. I テモテ 1:12.
  3. エペソ第 4 章 12 節の文法の構造によれば、キリストのからだの建造は、その務めの働きです：
    - a. 賜物のある人たちが、その務めの働きとして行なうどんなことも、キリストのからだの建造のためでなければなりません——エペソ 4:12, 16.
    - b. この建造は、賜物のある人たちによって直接、完成されるのではなく、賜物のある人たちによって成就された聖徒たちによって完成されます。賜物のある人たちの働きは間接的であり、聖徒たちの働きは直接的です——11-12 節。
    - c. これらの賜物のある人たちは、組み合わせの中で共に結合されて、召会の中の聖徒たちを成就して、聖徒たちの機能を引き出し、各自にその務めの働きを行なわせます——12 節。
    - d. このようにして、賜物のある人たちが成就することによって、すべての聖徒はその務めの働きを行ない、その結果、キリストのからだは建造されます——12, 16 節。
- C. 最終的に、キリストのからだのすべての肢体は、「その信仰の一に、また神の御子を知る全き知識の一に到達し、一人の完全に成長した人に到達し」ます——エペソ 4:13：
1. 3 節のその霊の一は、実際上の神聖な命の一です。13 節の一は、実行上のわたしたちの生活の中の一です：
    - a. 実際の一は、実行される必要があります、それによって実行上の一になる必要があります——3, 13 節。
    - b. 13 節の「到達する」という言葉は、わたしたちが実行上の生活の中の一に到達するのに、過程を経過する必要があることを示しています。実際の一

は開始であり、実行上の一は目的地です。

2. 実行上の一は、その信仰の一です—— 13 節：

a. 「その信仰」は、わたしたちの信じる行為を指しているのではなく、わたしたちの信じる事柄、例えば、キリストの神聖なパーソンや、わたしたちの救いのために完成された彼の贖いの働きなどを指しています—— I テモテ 1:19. 6:10, 12, 21. ユダ 3 節。

b. わたしたちは召会生活の中で、ただ一つだけ特殊なものを持っています。それは、その信仰です。信者を受け入れる根拠として、その信仰以外のものを主張することは、分裂です——ローマ 14:1. 15:7。

3. 実行上の一はまた、神の御子を知る全き知識の一でもあります——エペソ 4:13：

a. 神の御子を知る全き知識とは、命である神の御子に関する啓示に対する評価であり、それはわたしたちの経験のためです——マタイ 16:16。

b. その信仰の一は、神の御子を知る全き知識に完全にかかっています。わたしたちはキリストを中心とし、彼に焦点を合わせるときのみ、その信仰の一に到達することができます。なぜなら、神の御子の中でのみ、わたしたちの信仰は一になることができるからです——ヨハネ 20:31. ガラテヤ 1:15-16. 2:20. 4:4, 6. I コリント 2:2。

4. 「完全に成長した人」に到達するとは、命における円熟に到達することです。円熟は、実行上の一のために必要です——エペソ 4:13。

D. キリストのからだの建造のために、わたしたちは愛の中で真実を堅く保って、「すべての事で、かしらであるキリストの中へと成長し込む」必要があります—— 15 節：

1. キリストの中へと成長し込むことは、すべての事で、キリストにわたしたちの中で増し加わっていただき、ついにはわたしたちが一人の完全に成長した人に到達することです。

2. エペソ第 4 章 15 節の「かしら」が示しているのは、わたしたちがキリストの増し加わりによって命において成長することが、肢体たちがかしらの下でからだの中で成長することであるべきであるということです。

E. 命の成長は、かしらであるキリストの中へと成長し込むことですが、からだの中で活動（機能）することは、かしらから出てくる活動（機能）を持つことです—— 15-16 節：

1. まず、わたしたちはかしらの中へと成長し込みます。次に、かしらから出てくる、からだの建造のためのものを持ちます—— 16 節。

2. キリストのからだのあらゆる肢体は、命の成長と賜物の発展を通して度量を持ち、からだの成長のために活動（機能）します。

3. キリストのからだの成長とは、キリストが召会の中で増し加わることであり、その結果、からだはからだ自身を建て上げます—— 16 節。

II. 召会の有機的な機能は、キリストの有機的なからだの中にあり、またキリストの

有機的なからだの地方的な表現の中にあります—— I コリント 1:2. 12:27-28. ローマ 12:4-8. I コリント 12:4-11 :

- A. わたしたちはこの有機的なからだであるので、有機的であるべきであり、また召会生活の中で有機的に機能すべきです——ローマ 12:4-5 :
1. 神の恵みがキリストの中で神聖な要素としてわたしたちの存在の中へと入って来て、わたしたちの命となり、わたしたちに享受を得させるとき、特定の霊的技術と能力の要素をもたらします。この要素は、わたしたちの命における成長に伴って発展して命における賜物となります。それによって、わたしたちはキリストのからだの中で機能することができます—— 6-8 節。
  2. からだ全体が活動（機能）するとき、からだはそれ自身を成長させます。その結果、からだは愛の中で建て上げられます——エペソ 4:16。
- B. キリストの有機的なからだの有機的な機能は、からだの地方的な表現の中にあり、また三一の神の行動によってです。この行動は、神の働き（活動）の中にあり、主の多くの務めを通してであり、またその霊がキリストの有機的なからだの肢体の中で現された賜物を通してです—— I コリント 12:4-11, 28 :
1. I コリント第 12 章 4 節から 6 節には、父なる神の働き、子なる神の務め、霊なる神の賜物があります。
  2. その霊の賜物は、主の務めを遂行するためです。そして主の務めは父なる神の働きを成し遂げるためです—— 4-6 節。
  3. わたしたちが有機的に機能しているとき、わたしたちの中におられる三一の神は、わたしたちと共に行動します。
  4. 三一の神はわたしたちから離れて行動しません。わたしたちが動くとき、彼は行動します——エペソ 3:16-17. II コリント 13:14. I コリント 12:4-6。
- C. 召会の有機的な機能は、キリストの有機的なからだとしての召会を建造するためであり、このからだはすべての中ですべてを満たしているすべてを含む方の豊満です——エペソ 1:23。